

論理的文章を支援するツールの作成と検証

1632144 三浦 恋 指導教員 須田 宇宙 准教授

1 はじめに

2020 年から小学生のプログラミング教育が必修になることや 2022 年に国語改革があり新たに論理国語が選択授業に増える [1]. また大学では単位の取得や卒業のためにレポートや論文を書かなければならないが、書き方の指導や修正を行うライティングセンターの設置など近年論理的思考力や論理的文章作成力が求められる傾向が見られる。

しかし短期間で論理的文章を書く力を身につけることは容易なことではないため長期に渡って育む必要がある。そこで多くの大学で初年次教育としてレポートや論文の書き方であるアカデミックライティングを教えているが、初年次教育でのみ教えられ、以降の文章作成に対しての支援がない。そのため書いたレポートなどが正しいのか判断すら難しい。また課題に対しての答えが適切でない場合や主張が一貫した文章にならないなど論理的文章がかけていないことが問題点である。

そこで本研究では、アカデミックライティングの特徴でもある、問いと答えの構造と論理的な説明の構成と主張、根拠が明示されている。この 2 つの特徴を中心に支援することで主張や根拠に基づいた一貫した論理的文章の作成ができると考えた。そこで学生が必要される論理的文章を書くためのテクニックを支援するアウトラインツールを作成し、文章作成の支援することで論理的文章の作成力の向上を目的とし、作成したツールの有用性を確かめる。

2 アカデミックライティングについて

大学で作成が求められる、レポートやレジュメをはじめとし、卒業論文や研究学術論文など学術的な文章を書く技術、書く行為、または書いた物のことをアカデミックライティングという [2]. と書かれている。

2.1 アカデミックライティングの特徴

アカデミックライティングは小説や感想文等と異なり、いくつかの特徴が存在する。その中でも重要な特徴を以下に挙げる。

- (1) 問いと答えの構造と論理的な説明での構成されている。
- (2) 主張と根拠が明示されている。
- (3) パラグラフ構造になっている。
- (4) 引用の倫理のルールに従っている。
- (5) 学術的文章に特有の一定の形式に従ってる。

3 ツールの概要

主に支援するものは 2.1 で述べた (1) と (2) である。理由として論理的文章を書く際に必要になる技術であり、残りの 3 つは課題が出された際にすでに形式や書式が決まっているため論理的文章力の向上に繋がりにくいと考えたため今回は (1) と (2) について主に支援することで論理的文章力の向上を確かめる。

3.1 ツールの機能について

実装する機能として 1 つ目は「問いと答え」、2 つ目は「論理的な構成」、3 つ目は「主張と根拠」の 3 つの機能を実装する。

3.1.1 問いと答え

課題に対しての問いと答えの 2 つを 1 つのテキストボックス内に分けて書くことのできる機能であり、この機能の部分では課題にや主張に対し疑問や 5W1H に対する答えを単語ではなく短い文章で記述する。これにより短い文章で表されているため見返した際に主張からずれた意見が出ることを防ぐことができると考えたためこのような機能にする。

3.1.2 論理的な構成

論理的文章を書く上で 3.1.1 で書かれた短い文章は問いと答えがセットであるだけであって順番書かれているとは限らないため文章の順番を自由に変更できるよう文章の入れ替えができる機能にする。

3.1.3 主張と根拠

主張と根拠は別に表示できるようにし、主張に対する複数の根拠を表示する機能にする。根拠ごとに増やすことができ、引用した本のタイトルや Web ページの URL を記載できるようにすることで根拠として自分の考えなどを書いてしまうことを防ぐためにこのような機能にする。

4 今後の予定

実際に論理的な文章作成支援ツールを開発し、レポートや論文などを書いてもらい有用性を検証する。

参考文献

- [1] 文部科学省: "高等学校学習指導要領", http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/___icsFiles/afieldfile/2018/07/11/1384661_6_1_2.pdf
- [2] 堀 一成, 坂尻 彰宏: "阪大生のためのアカデミックライティング", <https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/27153/Academic%20Writing%20Introduction.pdf>, 2019/8/23 参照